

関東往還記

しょうかい

作者:性海(1235-1290年代?)

成立:弘長2年(1262)

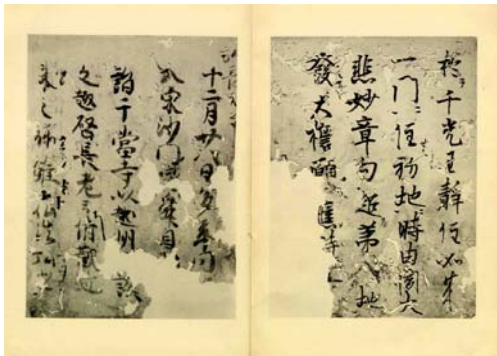


解題

Keyword

- 鎌倉
- 叡尊
- 忍性
- 西大寺
- 真言律宗
- 北条時頼
- 北条実時
- 関靖

奈良西大寺の長老・叡尊(えいそん)の関東下向と鎌倉での活動を、随行した弟子の性海が記録した日記。律宗の東国布教と、北条時頼、実時ら鎌倉武士の帰依を伝える史料として重要である。



『関東往還記前記』の巻頭影印(左) *右は聖教

■ 成立と諸本

性海による記録は弘長2年(1262)に2巻本として成立したと思われるが、この原本は現存しない。中世の金沢文庫本である写本が近世に加賀藩前田家のものとなり、尊経閣文庫蔵書として現在に伝えられている。これは前後を欠いた不完全な形ではあるが、唯一の伝本である。

また、昭和初期、創立(1930)直後の神奈川県立金沢文庫で、称名寺伝来の古書の中から『関東往還記』の失われた首部の断片が発見された。これは尊経閣文庫本を補うものとして、発見者・関靖により『関東往還記前記』と名づけられ、県立金沢文庫に保管されている。

翻刻は最初、尊経閣文庫本の写本により明治末に『史籍雑纂 第1』(国書刊行会)に収録されたが、書写のまちがいによる前後の乱れや重複がある。尊経閣文庫本の

直接の翻刻は、昭和になって『校訂増補 関東往還記』（便利堂）で初めて実現した。これには当時新発見の上記『関東往還記前記』の翻刻も併載されている。戦後に刊行された『西大寺叡尊伝記集成』（大谷出版社）にも、これら2つの翻刻が収録されている。

なお、書名中の「往還記」の読みとしては「おうかんき」が一般的であるが、論者によりこれを「おうげんき」と読んでいる例もある。

■ 編者

性海は叡尊近侍の僧として記録を担当していたようであるが、その伝は不詳である。細川涼一によれば（平凡社『感身学正記1』弘長2年の項、性海比丘への注）、性海の字（あざな）は覚証房、嘉禎元年（1235）に生まれ、奈良喜光寺の長老を務め、没年は永仁（1293-99）のころと推定される。『関東往還記』のほか、叡尊の伊勢参宮の記録（「西大寺伊勢御正体厨子納入文書」所収）、叡尊の死と葬儀・法事を記した「西大寺興正菩薩御入滅之記」などの著述を残している。

■ 内容

漢文で書かれ、弘長2年2月5日から同年7月30日までの日記が残る。なお、『前記』は弘長元年12月28日から2年2月2日までを収める。奈良を立ったのは2月4日、同月27日に鎌倉に到着している。道中の記録は簡略で、以後鎌倉における叡尊の活動が詳しく記される。叡尊は同行した弟子の僧たちや常陸国三村寺から来た忍性（にんしょう）らとともに、武士のみならず一般民衆にも戒律を授け、仏典の講読や法事を行い、大きな感銘を与えた。また、貧者や病者の救済、殺生禁断の励行なども手がけ、短い滞在期間にもかかわらず律宗の関東への布教を大いに進めた。

叡尊の鎌倉招請は、前執権で当時も幕府の実権を握っていた北条時頼の強い意向を受け、金沢文庫の創設者として知られる北条実時が実際の折衝に当たって実現させたものである。鎌倉滞在中の日記には、この時頼・実時をはじめ幕府要人の叡尊との会話や交流も記されていて、鎌倉時代史の史料としても貴重である。

現存の日記は7月までの記述で終わり、鎌倉滞在以後を欠いている。書名からは、奈良への帰路の記録もあったかと思われるが、定かではない。叡尊らの西大寺帰着は8月15日だった。

■ 叡尊と忍性

叡尊は建仁元年（1201）大和国に生まれ、出家して真言宗と戒律を学んだ。字は思円房。30歳代半ばで当時衰微していた西大寺に住し、その復興に努めるとともに真言律宗を開いた。関東に下り、鎌倉で布教したのは60歳を過ぎてからである。その後も奈良を中心に旺盛な活躍を続け、西大寺と宗派の興隆を主導した。正応3年（1290）に入滅後、朝廷から興正菩薩（こうしょうぼさ

つ)の号を贈られた。

忍性は建保5年(1217)同じく大和国に生まれ、叡尊に学び高弟となる。字は良観房。建長4年(1252)関東に下り、常陸国を拠点に布教活動に励んだ。この間、鎌倉の北条氏の帰依を得、これが叡尊招請につながったとみられる。文永4年(1267)長谷・極楽寺の開山となり、以後37年にわたり長老として布教はもとより、ハンセン病患者の救済や橋・道路の修築などにも尽力した。嘉元元年(1303)極楽寺で入滅。弟子たちは忍性菩薩と呼ぶようになったが、この号は25年後に後醍醐天皇により勅許された(1328)。



史料本文を読む

<翻刻本>

- ◆「関東往還記」(『史籍雑纂 第1』国書刊行会編 続群書類従刊行会 1974) [K24/97] ※国書刊行会1911年刊の覆刻
- 『校訂増補 関東往還記』関靖編 便利堂 1934 (索引あり) [K24/50]
- ◆*「関東往還記前記」/「関東往還記」(『西大寺叡尊伝記集成』奈良国立文化財研究所編 大谷出版社 1956) ※覆刻版 法蔵館 1977



史料についてさらに知る－参考文献－

- ◆大森金五郎「関東往還記を読む」(『歴史地理』vol. 31(5) 日本歴史地理学会 1918 [Z210.05/5])
- ◆鷲尾順敬「関東往還記及び其著者」(『歴史地理』vol. 32(1) 日本歴史地理学会 1918 [Z210.05/5])
- 『西大寺叡尊上人遷化之記并嘆徳記』熊原政男翻刻・校訂(『南都仏教』(4) 抜刷 1956? [K18.17/7])
※「西大寺興正菩薩御入滅之記」(性海筆)を収録
- 『叡尊・忍性』和島芳男著 吉川弘文館 1959 (人物叢書30) [K18.4/96]
- ◆吉田文夫「西大寺叡尊の東国下向」(『日本名僧論集 第5巻』吉川弘文館 1983 [180.28/11/5])
- ◆*今井雅晴「『関東往還記』および同前記」(『日本仏教史学』(20) 日本仏教史学会 1985)
- ◆*高橋秀榮「『関東往還記』について」(『印度学仏教学研究』vol. 35(2) 日本印度学仏教学会 1987)
- ◆前田元重「東国の叡尊と文化遺産」(『仏教芸術』(199) 毎日新聞社 1991) [Z705/36]
- 『感身学正記：西大寺叡尊の自伝 1』叡尊著 細川涼一訳注 平凡社 1999 (東洋文庫664) [188.12JJ/1/1]